

両角友成議員の2月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**から、質問の動画は右のQRコードよりご覧いただけます。



人工内耳装着児(重度難聴児)への支援を

両角 人工内耳セットは自費で購入すると両耳で約100万円かかり、予備を購入できずプールを諦める子どもがいると聞く。今、異次元の少子化対策が言われており、この子らに今こそ行政として手を差し伸べる時ではないか。人工内耳体外機について助成制度を設けている市町村もあるが、内容に格差がある。こうした現状に対する認識と今後どう対応していくか伺う。

健康福祉部長 人工内耳体外機の買換えについては、市町村が実施主体となる地域生活支援事業の補助対象であり、県では市町村が買換え費用の補助を行った場合は一定の補助を行い市町村の取組を支援している。市町村が必要な事業を選択して行う補助制度であるため、支援内容に違いが生じる。県としては、現行の補助制度について情報提供をし市町村の取組を支援、併せて国に対して引き続き補助制度の改善を強く要望していく。

難聴者の#7119の利用について

両角 昨年10月に導入された長野県救急安心センター「#7119」の利用状況はどうか。また、その利用にあたって、難聴者の方から「妻の体調が悪く#7119に電話をしたいが利用の術がなかった」との声。障害者差別解消法では、公的機関は事前改善措置をすべき努力義務が課せられている。#7119にメール対応の追加を願うがいかがか。

健康福祉部長 「#7119」の相談件数は、事業がスタートした昨年10月は1か月で約650件だったが、本年1月には約1,000件と着実に利用が増加している状況。来年度からの運営業務の委託仕様書案には、聴覚障がい者等の方からの相談に対応するためメールの受信環境を構築するなど可能な限りの相談体制の整備を加える予定としている。

マイナ保険証について

両角 政府は現行の保険証を本年12月2日に廃止し、マイナ保険証に一本化すると強硬姿勢。きちんと保険税・保険料を納めている方に保険証を交付しないのはおかしい話だ。いま一度でも二度でも、国に対し現行保険証を存続させるべきと迫ってほしい。

知事 現行保険証の存続というより、むしろマイナ保険証の普及を図っていくことが重要。人口減少下で豊かな社会を維持するためには、このデジタル化は避けて通れない。

両角 保険証は国民皆保険の根幹。巨額の予算と人手をかけて、欠陥だらけのマイナ保険証に一本化するのは愚策というしかない。保険証廃止を強行すれば、混乱が今と比べようもなく広がることは明らかである。現行の保険証を残すべき。

☆質問を終えて☆

質問をして実を取るのには難しいが、今回救急センター(#7119)に電話だけでなく、メールもOKとなり、難聴者からは歓迎されると思います。素直に良かったと思います。

